

シンポジストの先生方へ

いつもお世話になっております。

座長の長堀 薫です。連絡が急で申し訳ありません。

たいへんお忙しい、各分野で実績の豊富なトッププロにご参加いただけることとなり、深く感謝申し上げます次第です。

さて、ご努力のプロセスと成果をお聞きできることは貴重と存じます。その上で、一つめざしたいことがあります。新型コロナに直面する現場の医療者である参加者に、出席して有益だと感じてもらうことです。

意外と医療者であっても、必ずしも正確な情報は持たれていないように感じます。まず、ウイルスの基礎知識が弱い。RNA ウィルスってどんな構造で、何が弱点か。変異をやみくもに怖れている。

そもそも感染防御の基本、標準予防策ってどういうものか。

なぜ、いとも簡単に病床が逼迫してしまうのか。なぜ、そこで神奈川モデルが機能したのか。

病院協会の理事会での討論を聞いていても、ほぼ一般人に近い理解だなと感じることが、ままあります。

6人の先生方に、2時間半ご発表いただくわけですが、1時間の討論では、お一人お一人に皆の知識が深まるよう、お尋ねする形で進めたいと思います。

実地の臨床に関しては、統括官、重症対応、重点機関、在宅とお揃いですので討論して頂きたいと思います。

高崎先生、磯崎先生には資料をお送り下さり、有り難うございます。

高崎先生には、ウイルス学の専門家としてスパイク蛋白の変異、ウイルスの生存戦略として、病原性を強くするより感染力を高めるなどご教示いただき、有り難いです。

もし、可能であれば、コロナウィルスの基礎知識、サイズ、構造、スパイクの機能、ACE 受容体の局在によって

発症臓器が決まる、N501Y って 501 番目のアミノ酸がアスパラギンからチロシンに変わって感染力が変わったなど教えていただけると幸いです。

そして、いま最大の関心事、ワクチンについて誤った知識が流布しています。ここについて修正いただき、ゼロリスクではコロナ禍から脱出できないことをご教示いただけると有り難いです。

また、参加者の 99% はゲノムそのものを知りません。シーケンサーのお話などに、ついていくのは厳しいかもしれません。

磯崎先生には、在宅医療に県下でも最大規模で取り組まれ、バーチャルホスピタル構想を実現され、横須賀でもたいへんお世話になっており、感謝するばかりです。

ただ、今回は新型コロナウイルス対応が主体です。在宅診療でどう感染リスクを回避されたか、陽性者の在宅診療をいま第五波を迎える中でどうされているのか、皆の関心はここに 있습니다。フォーカスいただけたら、ありがたいです。

参加者はそれぞれのフィールドで、懸命に仕事に取り組んでいます。他の分野で広範に知識を取り入れていることは少ないようです。この方々に対し、専門家の立場であした役立つ情報を提供していただけると幸いです。

また、ご意見やご希望がありましたら、いつでもこのアドレスにご連絡ください。

不手際で直前のご連絡ですみませんが、よろしく願いいたします。

〒238-8558 横須賀市米が浜通 1-16

横須賀共済病院 病院長

長堀 薫